JEGニュースレター187号

www.jegschweiz.com　　２０２３年４月２３日

小さな証

スイスに暮らして３０年、、それは病いと闘う日々、、。その中で揺るぎない信頼を主に置き、平安のなかに生きる半生。
P２

未亡人会／プリンセス会

今年、発足した未亡人会そしてフィンランドから加藤琢実牧師を講師として迎え、プリンセス会（婦人会）がこの春、開催されました。p３

ハイナイトが発足

隔週の日曜日、５時から従来のスイスJEG祈り会に加え、イスラエルと日本を覚え、とりなすハイナイトの祈り会が発足しました。p３

聖地旅行感想文集

スイスJEG主催第４回聖地旅行が２月13日より21日まで催行されました。その印象と感動を参加者に綴っていただきました。P４−13

ちいさな祈り

天のおとうさま
わたしたちの祈りと行いと言葉が
音をたてて流れゆく浅い川のようでなく
朗々と流れる深い川の静まりを
私たちにお与えください。

エルサレムの平和のために祈れ。「おまえを愛する人々が栄えるように。おまえの城壁のうちには、平和があるように。おまえの宮殿のうちには、繁栄があるように」

詩編122：6、7

エルサレムに真の平和が訪れるのはイエスが再臨されるときです。私たちは、そのためにもイスラエルの民族的救いを祈ってまいりましょう。

ガリラヤ湖西岸から眺める夕陽

ちいさな証

光の国への招待状

脇山多恵子
スイス日本語福音キリスト教会

愛する主のお名前を心から賛美いたします。

昨年、スイスでの生活が30年を迎え、なんと日本にいた時より長くなってしまいました。その間を振り返ると試練も含めてたくさんのことを経験させていただきました。

ただ一つ言えることはいつも神様が共にいて支え続けてくださったということです。どんな苦しみの時も、孤独で打ちのめされそうな時も、生きていることが辛くてどうしようもない時も、その時はそう思えない時でも、確かに神様は「主よ、あなただけが神です、あなたを信じます。」と告白した時から私のようないやしい者の心の内に住んでくださって、何があっても見捨てたりせずに導き続けてくださいました。

悲しみを喜びに変え泣き顔を笑顔に変え、30年という痛みのある生活をも感謝できる者として少しずつ成長させてくださり、いつ死が訪れてもおかしくないと日々感じているのにもかかわらず今日まで生かしてくださっています。絶望の中にある私に希望を持つ力を与え、決してあきらめずに忍耐し待ち続けてくださり、大いなる愛を持って、その都度立ち上がることができるようにしてくださいました。

そのために私にできること、自分で頑張ることではなく、神様に信頼して、すべてをゆだねて神様の方向を向いていなかった自分を悔い改め、神様に自分の弱さをさらけ出し、ただ一言「神様ごめんなさい、こんな私を赦し助けてください。」って言うことだけでした。

神様は求めると必ず答えてくださる方です。それもすべてをご存知の方が最高の時に最善の方法で示してくださるので、時に人の思いをはるかに超えすぎていて理解できないこともありますが愚かな者の願いも聞いてくださり、良い物へとかえてくださるとわかってからは、お祈りすることで主と会話をし、今度はどんな方法で神様は応えてくださるのだろうと楽しみに待つことができるようになってきました。

そして神様が喜んでくださることが自分の喜びとなり、そうしたい、またそのような者になりたいと思えるようにさせてくださいました。

今はガラテヤ書にある愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制という御霊の実を神様に与えてくださるようにと願い求め、たくさんの実をつけることができるようになりたいと祈っています。

そして私のような者をも救い、永遠の御国に入ることを許してくださり、人間が作った神々ではなく人間を創ってくださった神様の想像をはるかに超えた愛を知り、一人も滅びることがなく神様のおられる光の国への招待状を受け取ることができるように、今も忍耐し待ってくださっているイエス様のために共に働き主の僕として、この世での生活を全うしたいと思います。

最後まで私と共にいてくださる主をあがめ、平安と希望を与えてくださる唯一絶対のお方に、すべての栄光を帰することのできる者として、これからも歩み続けていきたいと思います。

プロフィール

主人との結婚によりスイスでの生活が始まり、一年もしないうちに激痛を伴う病が与えられ、３年後に薬の副作用により胃と脾臓を全摘出手術、そして車椅子生活も経験し、寝たきりになることを宣告され、一時は身体を動かすこともできなくなり、水の入ったコップすらも持てなくなっていました。

それ以外にも貧血、不眠症、シェーングレン症候群、そして骨粗鬆症により毎年骨折していない時がないというほど骨折を繰り返し、何度も歩けなくなり、ありとあらゆる痛みを体験しました。

今年の２月に突然腰がおかしくなり、起き上がるのにも悲鳴をあげるほどの激痛で、一人で着替えることもできなくなってしまいました。

私にとって痛みは神さまにより近づくための方法であり、神様からのプレゼントとして感謝して受け取るための良き訓練となっています。

1、今年の復活祭礼拝

今年のスイス日本語福音キリスト教会のイースター伝道礼拝は通常より一週間遅く４月１６日に捧げられました。私たちの罪を負い自らの意思で刑場へむかわれ、十字架につけられ、死にて葬られ、そして蘇られたイエス様は、私たちの死後に復活の体を約束してくださいました。感謝！！

この礼拝のなかでユースによるスキットが上演されました。当日のマイヤー牧師のメッセージ”復活を信じるか？”は、スイスJEGのHPでご視聴いただけます。

2、スイスJEG主催第４回イスラエル旅行

前回の礼拝でみなさまのお祈りによって送り出されたことを心から感謝いたします。私たち第4回聖地旅行の参加者は主の護りの中、すばらしい9日間の日程を終え、2月21日、全員無事に帰国いたしました。

５才の子羊たかき君も、大人の羊にまじって、聖地をしっかりと、その目と足と舌で感じ取りました。現地ガイドのツァイリ享子（きょうこ）姉は、聖地とユダヤ人に密着した豊富な知識を伝えてくださり、マイヤー先生は聖地はみことばを実証し、神の栄光が現されていることを語ってくださり、連日、感動とともに濃厚な学びの時でした。

この恵みをメンバーはニュースレターでも皆様にお証しできたらと思っています。この機会を与えてくださった、神様、そして先生とみなさまに感謝して。　　聖地旅行　世話役　原憲二

3、スイスJEG未亡人会が開催

３月７日（火）サンクトガーレン市においてスイスJEG未亡人会が１０時半から催されて、クンツ先生はじめ８人の出席で、みこばの光を用いての聖書の学びに続き、その後、美味しい鍋料理を囲みました。

この日は、フリーブール近郊のフラマットから池田喜美子姉が片道３時間半以上かけて参加されました。池田姉は１９３６年生まれの８７歳、スマホを駆使されて、往復７時間の旅を軽々とされました。姉の神様と共に生き、老いていくことの素晴らしさ、、一同、見習いたいと思わされました。神様がこのスイスJEG未亡人会を祝福してくださっていることを知った一日

4、イスラエルを覚えるハイナイトが発足

スイスJEGでは、礼拝のない第１、第３日曜日の１７時から１８時まで、オンラインで”祈り会”をもっていますが、従来のスイスJEG祈り会に加え、イスラエルと日本を覚え、とりなすハイナイトの祈り会が発足しました。イスラエルの救いの為の架け橋となっているBFP(ブリッジフオピース)から配信されている月例の1時間のメッセージビデオ、ハイナイトを明日の祈り会の時間に上映し、祈っています。

https://www.bfpj.org/pray/chainight/church/

5、今年もプリンセス会が催行

フィンランドから加藤琢実牧師をお招きして、今年のプリンセス会（婦人会）が３月２４日、２５日と、Zentrum Rämismühle で行われました。

今回のテーマは「神の視点（永遠）から見る～アイディンティーの確認」でした。ピクニックランチの後セミナールームへ移動しました。ウェンディ宣教師が、聖くされるとは、加藤琢実師が、清めとは、そして”ゴールとそれに向かうプロセス”という題でお話ししてくださいました。

夜は「プリンセスダイアリーズ」という映画を鑑賞しました。普通の女子高校生がプリンセスへと教育されていくという内容の映画でした。翌日の午前中は、それぞれが神様と静まる時間を持ち、自分のゴールを尋ねました。その後分かち合いの時間を持ちました。

トムセン千香子記

6、5年ぶりにSLIMが開催

４月６日から９日にかけて、ミラノ郊外のカリマーテにおいて”危機の時代を生きる”（エペソ５章１５-１７節）をテーマに、ウクライナから船越真人牧師夫妻とフランスから阿部知幸宣教師を迎え、５年ぶりに対面式で開催されました。２５名の参加者とともに、危機の時代に主の栄光をあらわすことを学ぶ貴重なカンファレンスとなりました。

7、浜島敏兄が２冊の絵本を出版

浜島敏兄（四国学院大学名誉教授）が、このたび、聖書翻訳に関わった人物をテーマに、絵本（英和対訳）を出版されました。電子版とPOD(print on demand)版があり、アマゾンから注文できます。子供のためには、直接触れることの出来るPOD版がお勧めです。一冊税込1000円で、下のURLをクリックして欧州からも注文できます。

https://www.amazon.co.jp/%E6%9C%AC-%E6%B5%9C%E5%B3%B6%E6%95%8F/s?rh=n%3A465392%2Cp_27%3A%E6%B5%9C%E5%B3%B6%E6%95%8F

８、世界各地からホットな情報が満載の月報／ニュースレター＆メルマガが届いています！

工藤篤子メルマガ 、井野葉由美メルマガ、吉村美穂NL、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、パルタージュ、デュッセルドルフ日本語キリスト教会月報、ケルン・ボン日本語キリスト教会月報、森ゆり空レタ配達人、”宣教の声”が届いています。お読みになりたい方は、松林までご連絡ください。なお、スイスJEG会員の兄姉は、HPでパスワードを入れ、いつでも閲覧可能です。

イスラエルは神の栄光が現わされている地

原　憲二
スイス日本語福音キリスト教会

私たち第4回聖地旅行の参加者は主の護りの中、すばらしい9日間の日程を終え、2月21日、全員無事に帰国いたしました。５才の子羊たかき君も、大人の羊にまじって、聖地をしっかりと、その目と手足と舌で感じ取りました。現地ガイドのツァイリ享子（きょうこ）さんは、聖地とユダヤ人に密着した豊富な知識を伝えてくださり、マイヤー先生には聖地はみことばを実証し、神の栄光が現れされていることを語っていただきました。

お二人によって連日、感動とともに濃厚な学びの時を持つことができましたこと、心から感謝いたします。また、毎日がみことばの祝福の雨、讃美の時であり、聖地を共に歩みながらの兄弟姉妹との交わりは御国の前味ではないかと思わされました。ベテスダに建つ教会での私たちの讃美の響きは最高でした。https://drive.google.com/file/d/1T0LMuUBCWxXgQ4jihpOt5vJxeiH5C3r1/view?usp=share_link

聖地から受ける感動はいったいどこからくるのか。人に伝えようと思っても言い尽くせないもどかしさがありましたが、あるとき、マイヤー先生が礼拝メッセージでこう語られました。それは「イスラエルは神の栄光が現わされている地である。」ということでした。最もふさわしい言葉だと心に響きました。

聖地に足を踏み入れて、実際にこの目で見たことは、聖書の学びに大いに役立つことは第一回の聖地旅行の後ではっきりしました。それは言い換えれば、ますます神様、みことばの真理に近づく喜びでもあります。

一方、外の世界には反イスラエル社会、偏向報道。そしてキリスト教会においても依然存在する置換神学など、考えさせられる課題も準備セミナーやＢＦＰの講演などを通してイスラエルを知れば知るほど見えてきました。神を信じる世界と人間中心の世界の対立の構図がイスラエルを中心にあるようにも思わされます。アブラハム契約によれば、結果は「祝福」か「のろい」に繋がるということであり、義のお方である神様のその裁きを侮ってはならないと人類、特に国の権力者が悟るようにと願わされます。

聖書に書かれた預言の通りにイスラエルの民が世界中から呼び戻され、ますます繁栄している都市や農場を車窓から見ました。今現在は戦争を機にロシアとウクライナの両方からのユダヤ人帰還移民が急増しているということ。世界のいろいろな事件を通しても、主権者である神様は着々とその計画を進めておられる。3500年前に神はモーセを通して、現在起っていることを告げておられました。

「こうして終わりの日に、これらすべてのことがあなたに臨み、あなたが苦しみのうちにあるとき、あなたは、あなたの神、主に立ち返り、御声に聞き従う。あなたの神、主はあわれみ深い神であり、あなたを捨てず、あなたを滅ぼさず、あなたの父祖たちに誓った契約を忘れないからである。」（申命記４．30-31）

神様はいろいろな道を通しても、イスラエルの民を捨てず、滅ぼさず、父祖たちに誓ったとおり、そのあわれみによって祝福に導かれている。私たちすべての異邦人はこのことを目の当たりにして神がおられることを知らなければならない。神様はイスラエルを通して、その栄光を現わされ、全人類に知らせようとされている。

いつでも神様はこの世に終止符を打つことのできる方。「今日かも」。でも今日でなかったのは、我々人類への憐れみのゆえに最後のラッパを吹く時を忍耐をもって延ばされておられるのだと思います。そして、一人でも多くの人類がイエスの愛に応え、神のもとに立ち返ることを望んでおられるのだと思います。広大な荒野を見ました。

「荒野」はヘブライ語で「語る」と同じ綴り（מדבר）をもつ言葉ということを荒野を見ながら教えていただきました。「悔い改めよ。天の御国が近づいた」（マタイ3、1-2）かつてバプテスマのヨハネを通して叫ばれた神様の声が聞こえてくるようです。

百聞は一見にしかず

キャロル美佐子
カールスルーエ集会

今回のツアーガイドの享子さんが説明されたことで、頭に残ったことがある。「パウロはイエス様が神の御子だと分かった時に、ペテロよりもその事が理解できたはずです。ペテロは漁師でしたが、パウロはパリサイ派の教授みたいな人でしたから、旧約聖書の内容の知識はそれはそれはあったはずだからです。だからあそこまで宣教活動ができたと言えるでしょう」と、そのような事を説明してくださった。知識に裏付けされた動機というのはなんと強いものかと思った。

今回の聖地旅行は知識の旅であったと思う。「百聞は一見にしかず」と言うが、「一見」の上に、マイヤー先生と享子さんから「百聞」分の解説が付いたのだから、目で耳で知識がドンドン押し寄せてくる感じだった。旧約聖書のアブラハムから、イエス様に至るまで、実在する場所にいき、水の隠れた荒野に行き、聖書に登場する人物たちが立ったであろう場所に立つ、そして旧約聖書の預言の通りになりつつある景色を見る。全てが現実である。想像していたのとは違う現実がそこにあった。

聖書の話をただの話としか理解していなかったのではないかと痛感した。もう一度最初から聖書を読みたいと思った。今度は「一見した」場所を思い浮かべ、マイヤー先生や享子さんから説明された「百聞」を思い出しながら読みたいと切に思った。誰かと聖書について話をする場合（特に主人）、知識は必要だと思うのだ。

知識云々の事を書いてしまったが、アブラハムの井戸に向かう途中のマイヤー先生のお話で、創世記22：1が読まれた。ここで信仰とは「はい、ここにおります」と神様の呼びかけに応答する、これが信仰であるとのお話であった。知識を持って聖書を知りたいという思いが持たされたが、このマイヤー先生のお話で「信仰とは何か」を理解する事ができたと思う。

ただただシンプルに「はい、ここにおります」と主に応答していきたい。どんなに知識が重要であったとしても、主に対するこのシンプルな応答が先だなぁと思う。私の名を呼んで、いつも呼びかけてくださる神様にただただ感謝である。主人と一緒にこの旅行に行けたのも、2回キャンセルになって延びたからである。なんとラッキー！私にとっては、この旅行は神様のご計画そのものだ。

目から鱗の発見

冨永幹恵
パリ・プロテスタント日本語キリスト教会

たくさんの準備と背後で祈られ続けられていた聖地旅行に参加できました事、感謝に耐えません。マイヤー先生ありがとうございました。原兄や佐々木兄やその他の方々にもお世話になりました。今回は2回目になりますが、1回目と比べてゆとりが出たのか、イスラエルの地形、民族、歴史などが前よりも理解でき、«族長の道»と言う道の存在に眼を見張り、その道を通っている感激に浸りました。

語っていただいたたくさんのメッセージに、癒され恵まれました。車中の説明も、毎日のプログラムもすばらしく、どの地を訪れても目から鱗で発見がありました。ヤッファをたずね、カイザリアを臨みペテロの足跡に思いを馳せました。コラジンを訪れ「あぁコラジン、あぁベツサイダ・・・」マタイ11:21のみことばの意味を実感しました。マイヤー先生のイスラエルにおけるお働き，証しを通して，行動です、行いですと言われた言葉に、そこに至るまでの労を思い量りました。

ユダヤ人のために祈ると言う事を聞いていましたが、複雑な状況にあるユダヤ人に対して初めて親近感を覚え、少しですが重荷をいただきました。ベン・グリオンのお墓も訪れる事ができ、キブツで生活し続けた氏の人柄を知るチャンスともなりました。

荒野を前に感じ入っていると、“人が荒野をハイキングをしている姿“に何だかミスマッチで見入ってしまいました。カタカナの聖書の地名にも、もっと馴染んでいきたいと思います。同行させていただいた皆様方のお顔や姿を思い浮かべつつ、楽しかった聖地旅行の思い出を記させていただきました。ありがとうございました。

異邦人の救いとユダヤ人

冨永重厚
パリ・プロテスタント日本語
キリスト教会

私と家内はスイス日本語教会主催の第４回イスラエル聖地旅行に参加できました。２０１９年３月の第３回の聖地旅行に続き二回目の参加でした。今回は私が前立腺がんの治療中での参加でしたので少し不安がありましたが、主のあわれみによって思いがけない大きな恵みと新たな力を頂きました。

今回も旧約聖書でなじみのある多くの場所とイエスさまの歩まれた聖地を訪れ、その場でマイヤー先生のメッセセージを聞くことによって，聖書に書かれていることがすべて真実であり、真理であることを確信することができました。

クリスチャンとして現地ガイドを務めて下さったツァイリ享子さんの丁寧かつ分かりやすい説明のおかげで聖地イスラエルをより深く知ることができました。見たこと聞いたことの多くがまだ十分整理されていませんが一番印象に残ったことの内から一つだけを分かち合いたいと思います。

第６日の２月１８日は土曜日でメシアニックジューのシャバットの礼拝に出席しました。その自由な雰囲気と活気のある礼拝は私たちの日本人教会のきちんと決められた礼拝とは大きく違い驚かされました。

そしてその日の夜、嘆きの壁を訪れ、夜中にもかかわらず多くのユダヤの正統派の方々が、黒い服装で頭を上下に振りながらトーラを唱え、熱心に祈っておられる姿を拝見しました。こちらは午前中に参加したメシアニックの教会の礼拝と正反対の決められたことに従順に従うユダヤ人の姿です。

このことを通して我々異邦人と旧約の世界に今なお生きるユダヤ人の信仰につき考えさせられました。異邦人伝道に召しを受けたパウロの気持ちがローマ人への手紙に書かれています。

イエス・キリストによる十字架の贖いによって、律法から解放され御霊による信仰を与えられた私たちのような異邦人と、頑なにイエス・キリストを受け入れないイスラエルの多くの民に対して、パウロは「彼らの背きによって、救いが異邦人に及び，イスラエルにねたみを起こさせました」(ローマ11；11)と驚くべきことを言っています。

そしてオリーブの木から私たち異邦人は接ぎ木された野生のオリーブの枝であり、オリーブの「根があなたがたを支えている」のだから根であるイスラエルは最終的には「みな救われる」とパウロの思いを述べています。

確かにイエス・キリストをメシアとして認めるユダヤ人即ちメシアニックジューの方々が増えてきており，私たちは聖書の預言の成就を目撃するという歴史的経験をしているのです。

メシアニックジューの教会の自由な喜びに満ちた礼拝と正統派の嘆きの壁での熱心な祈りの姿は実に対照的です。私は正統派の嘆きの壁での熱い祈りに感動を覚えると同時に、行いではなく信仰によって救って下さる神さまのあわれみに深く感謝する者です。

本来最初に救われるはずのイスラエルの民の心を頑なにしてまで、異邦人である私たちを救って下さった神さまの深いご愛を覚え、律法から解放された私たちが二度と律法主義に陥ることなく、神のいつくしみとあわれみ、その恵みにただただ感謝しつつ、喜びを持って歩んで行きたいと強く思わされました。

この素晴らしい聖地旅行を企画・準備して下さったスイス日本語福音キリスト教会、特にマイヤー先生と団長の原兄に心から感謝致します。私にとって忘れられない聖地旅行となりました。

「ああ、神の知恵と知識の富は、何と深いことでしょう。神のさばきはなんと知り尽くしがたく、神の道は何と極めがたいことでしょう」　ローマ１１：３３

ゲッセマネの園にある樹齢２千年を越すオリーブ

神に選ばれた土地

真壁かおる
スイス日本語福音キリスト教会

神はイスラエルに対して恵み深い。
詩篇73：１節より

神が選ばれた土地イスラエル。雨季である2月は緑豊かで野生の草木に花が咲いていた。その中でもアーモンドの花はあちこちに沢山咲いていた。アーモンドはエレミア書にある見張りの木。雨季に入り最初に咲くのでそう呼ばれるのだとマイヤー先生から以前お聞きした事がある。エレミヤはアーモンドの枝から神様からの召命を知った。そんなことを考えながら「これがその花か」と私はクンクン甘い花の香りを楽しんだ。白い花びらの中心がピンクの愛らしい花である。

シロの幕屋の遺跡にもアーモンドが咲いていた。少年サムエルが自分の名を呼ぶ神様の声を聞いた場所である。サムエルはここではっきりと神の声を聞いたのだ。

ナザレのイエス様の時代を体験できる村でもアーモンドは咲いていた。ロバや羊もいて２千年前の服装の人が当時の生活を説明してくれた。私たちのグループの5歳のT君が元気に飛び回っているのを見ながら、子供のイエス様はこんな所を駆け回っていたのかな？と思った。ナザレはのどかな風景。ごく普通の田舎の村にイエス様はおられたのだなあ。

イエス様がたくさんの奇跡を行ったゲネサレ湖の周りの街々。湖は波も無く鏡のようにとても穏やかだった。私たちは揺れない船の中でイスラエルのフォークダンスを輪になって息が切れるまで踊った。楽しかったし血行が良くなって元気になった。ダンスはここの文化だそうだ。聖書に出てくるカナの婚礼は、きっとダンスも踊って賑やかだったろうなあ？この日はとても良い天気であったが

私たちが来る前の週は嵐だったとの事。ガリラヤ湖から発掘されたイエス様時代の船の展示を見ながら聖書の中の弟子たちが漁をしていた姿を想像した。

ギデオンの泉。時々「ぶくっ」と泡が出てくる。今も水が湧いているのだ。

棗椰子の畑を抜け乾いた荒野をバスは走り、西岸地区に入る。エリコは最古の街である。ユダヤ人は立ち入り禁止だが私たちは観光客で入ることができる。らくだが居たりアラブの雰囲気である。エリコにも湧き出る泉がある。砂漠の中にもこんなに水が豊富な場所があるのだと、それを実感した。ガイドの享子さんが「水は、即ち恵みは目に見えない所から来るのです。」と説明してくださった。バスの中からザーカイが登ったという、いちじく桑の木を見た。これか！と思った。「イエス様に呼ばれて良かったね、ザーカイさん。」と私は心の中でつぶやいた。

ザーカイが登ったいちじく桑の木

ベエルシェバのアブラハムの井戸も見た。今から４千年前の出来事。根を深く張るアカシアやギョリュウの木が生えている所には水がある印、と説明を聞いた。聖書の通りに井戸の横にギョリュウの木が植えてあった。「アブラハムは永遠の神、主の御名を呼んだ。」と聖書にある。

ベツレヘム。神殿のための羊を飼っていた羊飼いは高台にあるベツレヘムの街に登って行った。この風景を私はクリスマスに思いだそう！

エルサレム、ベテスダの遺跡。イエス様はこの場所で 38年間病気だった人を癒やされた。本当に遺跡があることに驚いた。プールのようなものが２つあったらしい。その上にはベテスダを記念した教会の遺跡も積み重なっていた。人間の歴史が層になっているのである。

土曜日のシャバット。ユダヤ人クリスチャンの礼拝は次から次へと沢山の旧約聖書の引用を使い、イエスの「救いと悔い改め」についての説教であった。私はヘブライ語も英語もわからない。夫の治が通訳してくれた。感謝。前回のイスラエルの旅行の時は「許し」について沢山の旧約から引用していたのを覚えてる。新約聖書を語るのに引用する旧約の箇所の多さに驚いた。ユダヤ教徒は旧約聖書を本当によく知って

第４回聖地旅行を終えて

いるのだ。私は別の日にエルサレムの嘆きの壁でもユダヤ人の驚くべき熱心な祈祷の様子を見た。

「ユダヤ人パウロ（サウル）が聖書をどれだけ暗記していたかわかりますか？パウロは天からの光で地に倒れイエス様に出会った時の最初から聖書を理解していたに違いないのです。弟子の多くは漁師だったでしょ。」とガイドの享子さん。私は以前から持っていた疑問があった。「パウロはイエス様と一緒にいた弟子ではないのに、なぜキリストの教えを早く理解できたのか？伝道できたのか？」　パウロは聖書をよく覚えていたからイエス様の救いを受け入れた時、足りなかったジグソーパズルがカチッとはまったように目から鱗、突然！悔い改めキリストを伝道し始めたのだ。イスラエルに来てユダヤ教へのイメージがハッキリして私の疑問は解けた。

ヤッファ　皮なめしシモンの家

ホロコースト経験者の老人ホーム Zedakahのお話を聞いた日があった。ユダヤ人は聖書を知っている。だから聖書を語り説き伏せるのではなく、心からの愛ある接し方が大事だとマイヤー先生もおっしゃった。そしてスタッフの方々の入居者の方への愛あるお世話がイエス様を証している事を知った。やはり愛は何よりも大事なのだなあ。私は胸が熱くなった。

エルサレムのゲッセマネの園には樹齢３千年のオリーブの木があった。他にも大きな古いオリーブの木が見える。イエス様が祈られている時もオリーブの木はずっとそこにあったのだ。

エルサレムの神殿へ向かう階段では、私は歩きながら少年イエスもここを家族と歩いたのかと思いを馳せた。

最後の日はヤッファ。エルサレムは埃（ほこり）と排気ガスが酷かったがここは乾いた澄んだ空気。抜けるように明るい空と地中海は青と緑がかった青の複雑な深い色で美しかった。使徒言行録に出てくるペテロが滞在した皮なめしシモンの家を見た。今でもどなたかが住んでいる家である。ペテロはこの家の屋上で幻を見たのだ。そしてこの戸の前で使いの人は「ペテロは泊まっておられますか？」と尋ねたのかなあ。聖書に出てくるお話は事実の記録なのだと実感する。ヤッファで飲んだ搾りたてのザクロジュースもとても美味しかった！

私は以前から「聖書の固有名詞が覚えられない。何とかなりませんか？」と天に向かって訴えていた。（笑）すると神様はこの旅行を私に下さった。

聖書の舞台はイスラエル。当然であるがイスラエルは至る所に聖書が反映されている。乾いた土地は遺跡を残しておくのに適しているのだろう。そしてその出来事の場所も記念教会をいろいろな宗派が建てて記録している。聖書のお話だらけである。旅の間それを思い浮かべるのはとても楽しく幸せであった。しかし聖書の約４千年の歴史を行ったり来たりしたので頭がクラクラした。

でもマイヤー先生とガイドの享子さんのお話し、憲二さんが作ってくださったガイドブックのおかげで深くイスラエルと聖書を理解することができた。ありがとうございます。家に帰り落ち着いてニュースを読むと色々と事件も起きている。しかし事故にも病気にも遭わず無事に帰れたのは感謝である。マイヤー先生と享子さんは、おそらく旅行中も情報を見極め計画を進めてくださったのだと心より感謝いたします。そして一緒に旅した皆様、ありがとうございました。お世話になりました。アラブ人のバスの運転手さんは穏やかな良い方だったなあ。

イスラエルは 全てが聖書博物館。イスラエルの国が私に神様を証してくれた。

ヤッファから見たテルアビブ

第４回聖地旅行を終えて

神に選ばれた土地

佐々木千鶴
Christusbund

以前は夢にも思わなかったイスラエル国へ、次第に私の心は聖地へと向かい、念願のイスラエルの旅がついに叶えられました。

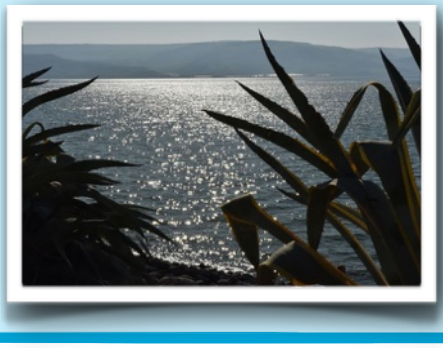
はじめに、この旅行のために労して下さったマイヤー先生の尊い愛溢れるお働きに心より感謝いたします。また現地ガイドを務めて下さったクリスチャンでもあるツァイリ享子さんと私たちの旅を安全に導いて下さったバス運転手のバッサムさん、世話役の原憲二さん、そして参加者の皆さまに心からお礼申し上げたいと思います。

雨季が終わりに近づく半ば、嵐が去ったあとで恵みの雨により一気に緑が生え茂ったとの事、聖書に出てくるアーモンドの木はどの花木にも勝って青空の下で淡いピンク色の花を咲かせ、創造主である神さまが春を告げ知らせているかのようでした。（ナザレ村の光景を思いだしながら）

聖書に出てくる諸所を巡り、訪れる場所ごとに、景色を見渡しながらみ言葉を裏付けるお話や解説を聴いているうちにタイムスリップしたような感覚を覚える時がありました。

旧約時代に会見の幕屋が350年も建っていたという「シロ」では、今眺めているこの場所のどこかにハンナが立って主に祈り求めていたのか、と想像した時、感慨深い思いでいっぱいになり、ハンナの願いを心に留められた主の慈しみと栄光を強く感じてしばらく余韻に浸っていました。

また、第4日目に訪れた新約聖書のイエス様が弟子たちと宣教の拠点として歩まれたガリラヤ地方のゲネサレ湖では、マイヤー先生のお話に耳を傾け、湖を眺めながら皆さんと共に湖畔で過ごした時間も忘れる事はできません。イエス様の愛に満ちたお話をゆっくり聴く時間は、群衆たちにとって本当に憩いの時、癒しの時であっただろう、と場面を想像しながら恵み豊かな時間を過ごす事ができました。



第6日目にはメシアニックジューの方々が集う教会礼拝参加を体験し、迫害に遭う今日でも、ひっそりとした建物内で福音の信仰に堅く立って礼拝を守り、共に賛美する皆さんの姿には胸が熱くなりました。改宗するユダヤ人が増えているとの事、この日も大きな室内は満席でした。それは聖書がいかに確かであるかの証でもあると思わされ、会場の皆さんから励ましをいただきました。

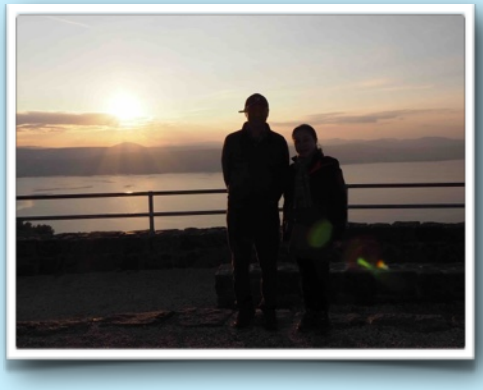
また、過酷な人生経験を持つホロコースト生存者が暮らすMaalot　老人ホームでのZedakah団体のお働きにもとても感銘を受けました。クリスチャンとして、入居者に対する奉仕者の接し方などマイヤー先生のお話を含めて心が揺さぶられています。まずは心を寄せて無償の愛を示していく事、その愛を受け入れてはじめて少しずつ心が開かれていくと・・・深く頷けました。

最後に滞在したエルサレムはやはりクライマックスでもありました。イエス様が受難に先立って苦悩し、ゲッセマネの園でどれほどに血の滴るような悲しみのお祈りをされたのかと思うと心がとても重苦しくなってしまいましたが、それでも壁画に目が釘付けになってしばらくはその場にたたずんでしまいました。受難節のこの時期、主イエスの十字架によって生かされている幸いをあらためて認識し、感謝のうちに生きる者とさせていただきたいと願います。

旅も瞬く間に最終前日を迎え、翌日帰途につくのが名残惜しく寂しささえ感じる中、第8日目はかつてアブラハムが移り住み、モーセが歩いたというネゲブ砂漠へと。この広大で静寂した荒野で信仰の父であるアブラハムは夜空にある満天の星を見上げながら、どのように神の言葉を聞いて、主を信じたのだろう？とますます想像は膨らみます。パノラマ天望が素晴らしく歴史の重みを感じる神秘的な岩砂漠でした。

この旅で遺跡や聖書に書かれている場所を目のあたりにして、現地ガイドを務めて下さった享子さんが聖地案内や解説だけではなくイスラエル国とユダヤ人の人生観、聖書との関連性について霊的な視点で幅広い分野まで分かりやすく説明をして

下さり感動の連続で、すべてがリンクされた瞬間、聖書は生きているのだ、とますます神さまの壮大なご計画を確信する事ができて大きな喜びに包まれました。



また、ユダヤ人の祖先である神に選ばれたはじめの民、アブラハムの時代からイエス・キリストの出現による世界歴史の流れ、現世に至るまでの経緯に基づくユダヤ民族の歴史を聖書を通して更に深く学んでいきたいと思わされた旅でした。将来に向けて時が流れていく中で聖書の預言が成就しつつ、イスラエルを通して世界中の人々にも神の祝福が向けられている事をより現実として真に受け止める機会にもなり、ユダヤ人の神に対する厚い信仰を重んじ、イスラエルのためにも祈り続けていきたいと強く願わされました。

はじめての聖地旅行は言葉にはならない程に恵み溢れる8日間でした。すべてを紙面上でお伝えする事は出来ませんが、聖書に書かれている歴史の足跡をたどりながら沢山の事を学び、心で感じ、体感を通してますます聖書の預言が明白になってきたと感じる旅でもありました。

皆さまとの夜の分かち合いもかけがえのない素晴らしい時間でした。参加者お一人お一人のお話が大切な証しとなり皆さまから励ましをいただきました。

あと・・・急遽行先を変えてガリラヤ湖東岸にバスを走らせて下さった運転手のバッサムさん、どうもありがとうございました。おかげさまで美しい夕焼けと共に太陽がゆっくり沈む瞬間を皆さんと眺めながら豊かな時間を過ごす事ができました。マイヤー先生、本当にありがとうございました。

ハレルヤ！聖地へと招いて下さった主の素晴らしい恵みを心から感謝します。主の栄光がたたえられますように！

聖書に書かれた真実

島延之
スイス日本語福音キリスト教会

念願のイスラエル聖地旅行！親愛なる神様、ありがとうございます。感謝します。マイヤー先生、憲二さんのお蔭でイスラエルの空気を吸うことができました。

聖書を読み始めた4年前に原さんご夫妻から聖地旅行に誘われましたが、まだ２ペ-ジも聖書を開いていない私は次の機会にぜひ行きたいと思いました。今、自分は聖地イスラエルに着きました。主に感謝します。

テルアビブからネタニアにバスで行く間には工事中の大きなビルが沢山並んでいて、新しい道路が作られていて、若いイスラエル人が増えて活気に満ちていることを感じ、その近代的な都市計画は未来の国家イスラエルを象徴していると思いました。

9日間多くの遺跡や観光地を案内していただき、目で見、耳で聞き、鼻で匂いを嗅ぎ、舌で味わい、手で触って、体の中で霊を感じました。

バスで走る車中や遺跡の場所ではガイドの享子さんとマイヤー先生が詳しい案内と聖書に書いてある説明をして下さり、憲二さんが作ってくれたシオリと地図で何処を走っているか、今、何処に居るかを見ながらの旅行でした。

ベン・グリオンのお墓から見たネゲブ砂漠やクムラン洞窟のあるユダヤ砂漠。私が想像していた荒野と実際に見た荒野とは随分違っていました。

そして、水のある所には緑の草が生えていました。遺跡の場所では聖書に書いてある事は真実であると確信しました。この様な体験が出来たことを神様に感謝します。マイヤー先生、憲二さん、享子さん、巧みなハンドル操作で運転して下さったバスドライバーのバッサムさん、ありがとうございました。そして、参加者の皆さんと一緒に素晴らしい旅行が出来たことを心から感謝いたします。

素晴らしい国、すごい国

佐々木久幸
Christusbund

まず最初にこの旅行を我々に与えてくださり、また全期間を通じて、ひとりの病人、けが人がでることなく、また、事故や盗難から我々を守ってくださった主イエスに心から感謝いたします。

今回の聖地旅行にはシュトゥットガルトから四名参加させていただきました。前日にチューリッヒに到着し、スイス日本語福音キリスト教会の礼拝にも参加させていただきました。「ザアカイの救い」というテーマで、マイヤー先生はエリコの街を地図も用いて詳しく解説してくださいました。今回エリコの街も訪問する予定でしたので、とても興味深く説教を聞くことができました。感謝いたします。

新緑のイスラエルでは、とてもたくさんの教会、そして聖書ゆかりの地を見学させていただきました。バスの中、そして、各訪問先でマイヤー先生が御言葉をとりついでくださり、聖霊の働きにより、とても霊に満ちた時間を過ごすことができました。

万国民の教会

訪問した数ある教会の中でも、エルサレムのゲッセマネにある「万国民の教会」は、私の霊的ハイライトだったと思います。その数日前にナザレ・ビレッジを訪問した際に、オリーブから油を絞りだす当時の機械を見学し、この機械がヘブライ語でガッシュ・マニム（油しぼり機）であるということも教えていただきました。

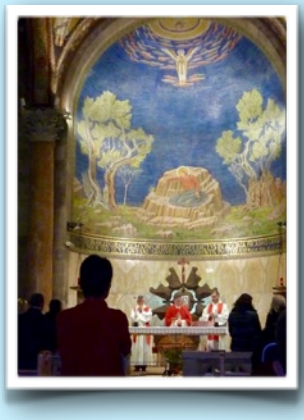
そして、この油絞りは三度行われ、一回目にとれる上質な油は神殿用、続いて薬用化粧用、三回目のものが食用で、これはやっとのことで絞り出し、種が混ざることもしばしばあったそうです。

油絞り機

このゲッセマネ（ガッシュ・マニムから派生したようです）で主イエスは三度の祈りをささげました。迫りくる十字架の死を前して、あたかもご自分が重たい石を載せられて絞りだされるオリーブのように、汗が血のしずくのように地に落ちたことが記述されています。（マタイ26章、マルコ14章、ルカ22章参照）

さて、「万国民の教会」ですが、ここには主が膝まづいてお祈りされたといわれる岩の一部が祭壇前に保存されています。訪れた時間が早かったためか、比較的訪問者が少なく、私は祭壇前のベンチに座ることができました。少しすると岩の場所に空きができたので、私はそこへ行き、膝まづいて両手を岩につけました。その瞬間、体中に電流が走りだし、頭の中が空っぽになりました。なんとか気をとりもどして、主の祈りを唱え、そして主の贖いについての感謝の祈りを捧げました。その間、私は霊的に圧倒されてしまい、涙腺崩壊。その後も半分フラフラのような状態でやっとベンチに戻ることができました。言葉では言い表せない実に不思議な、そして貴重な体験でした。

実は、その直前にガイドの享子さんより、激しい宗教的主題をともなうことにより発症する「エルサレム症候群」という急性の精神病があり、文字通りエルサレムを訪れた人でこれにかかる人が少なくないということを聞いていました。もしかして、私もこの病気にかかったのかな？などと、考えてしまいました。


万国民の教会の祭壇

主がここで行った苦痛に満ちた祈り。しかも三度、地名も油絞り。その傍で弟子たちが眠ってしまったこと。人としての主の苦悩を推察することはできますが、それを表現するすべを私は知りません。しかし、この場所で、私自身がお祈りすることを実体験できたこと、そして、それは、本当にこの場所に行ってしかできないことであり、とても恵まれた非常に貴重な体験であったことに後に冷静になって気が付きました。そして、とても聖書が読みたくなりました。特にヨハネ17章の大祭司の祈りです。これはゲッセマネに行く前に捧げられたらしいのですが、とにかく、素晴らしい、そして、すごいお祈りです。

また、今回の旅行でイスラエルについて、そしてユダヤ人について、たくさん知ることができました。私の前回のイスラエル旅行ではパレスチナ人を訪問したこともあり、パレスチナ人側から見たイスラエルを知ることができました。今回は、黒ずくめの服に大きな帽子、豊かなあごひげに、長いもみあげの、例の典型的なユダヤ人をまじかに、しかもたくさん見ることができました。彼らはユダヤ教の超正統派と呼ばれ、マイヤー先

生とガイドの享子さんから、たくさんのことを教えていただきました。

彼らは宗教家として、ユダヤ教の勉強と祈りを日課とし、他に職業をもっていない、家計は奥さんが支えている、国から援助がでる、子だくさんである（一家庭平均子供六人以上、十人以上子供がいる家庭も多い）、子供は兵役が免除される、などなど。この超正統派が百万人以上いるというから驚きです。

２０２２年11月の総選挙で誕生した今の政府は、ネタニヤフ首相ひきいる右派政党、そして極右政党、さらに宗教政党の連立政権です。超正統派の中にもたくさんのグループがあるそうで、どの団体がどの政党を支持しているかは、詳しく知りませんが、これほどたくさんの宗教家を支えていけるイスラエルという国はすごい、というのが率直な意見です。

また、マイヤー先生が所属するZedakah団体の責任者のお一人であるBeyerさんご夫婦からお話を聞けたことも感謝です。ドイツ人の若いボランティアの方々が、ホロコースト犠牲者の方々に、「言葉ではなく、愛を態度で表して接している」こと、そして、時間はかかるけど、必ず交流が生まれることを教えていただきました。主イエスの愛に感謝いたします。

私にとって、信仰を持つ前までは全く眼中になかったイスラエルという国が、今ではとても大切な、そして「素晴らしくて、すごい」国であることがわかってきました。今後とも、神の民として我々に福音を伝えてくださったこのイスラエルの民のために祈りつづけていきたいと思います。

最後に、コロナの影響で二度もキャンセルになり、実施が危ぶまれていました今回の聖地旅行ですが、旅行前の三度の学び会を含め、企画し、同行してくださったマイヤー先生、プロテスタントのクリスチャンであり素晴らしいガイドをしてくださった享子さん、副団長の原憲二兄、バスのバッサム運転手、そして主イエスの愛で結ばれた素晴らしい参加者お一人、お一人に心より感謝を申し上げたいと思います。

期待を上回った聖地旅行

アンディ・キャロル

カールスルーエ集会

The Israeli trip was a great experience and exceeded my expectations. This was due to the great preparation and planning, and the excellent insights provided by Mr. Meyer and Kyoko along the way. Also the preparation and support by Hara-san, was great. Thank you!

It was well organized around selected and relevant bible references, and provided a great insight into biblical history, as well as the history and current situation of the Israeli state. In doing so we also got to travel the length and breath of the country, which was great.

For me, one of the high points was seeing christianity in action, when we met Mr. Bayer and learned about the work of the Zedakah organization. It is a very impressive and important activity.

Thank you again to all the organizers and the very nice group of travel companions.

聖地旅行は素晴らしい経験で、私の期待を上回りました。それは優れた準備と計画の賜物であり、そしてマイヤー牧師と享子姉によって提供された素晴らしい見識によるものでした。また、原さんの準備とサポートも素晴らしかったです。ありがとうございました！

聖書から選ばれた適切な参照がとてもよく構成されており、聖書の歴史だけでなく、イスラエル国家の歴史と現在の状況についての優れた洞察を与えてくださいました。そうすることで、国の長さと息吹を旅することもできました。

私にとって最高だったことの一つは、バイエル氏に会い、ゼダカ組織の活動について学んだときに、キリスト教が実際に実践されているのを見たことです。とても印象的で重要な活動です。主催者の皆様、そして素敵な旅行仲間の皆様に改めて感謝申し上げます。

第４回聖地旅行を終えて

”荒野”で”語られる”神

真壁 治
スイス日本語福音キリスト教会

「エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、自分に遣わされた人々を石で撃ち殺すものよ、、、わたしはお前らの子を何度集めようとしたことか。だが、お前たちは応じようとしなかった。」（マタイ23:37）

このイエスの御言葉は、今回のイスラエル旅行の間中、私の耳元で鳴り止むことが無く、またマイヤー先生が頻繁に引用された、二人の御使いがマリア達に語った言葉、「なぜ、生きておられる方を死者の中に探すのか。あの方はここにはおられない。復活なさったのだ。」（ルカ24:5b-6a)と対をなし、今回の聖地旅行を定義するものとして、私の中に確固たる位置を占めています。

ネゲブ砂漠をベン・グリオン夫妻の墓所より眺む

なのに、何故に私は、いや多くのキリスト者のみならず、ユダヤ人、アラブ人、そしてあらゆる異邦人が大挙してイスラエルに、そしてエルサレムに詣でるのか？あたかも陣取り合戦の様に、至る所に、聖書に登場する人物と出来事を記念する建造物が、無秩序に建てられていることを良しとしているのか？神殿の崩壊を預言し、神殿から商人たちを追い払った主イエスなら、この有様を何と言われるかを心配するまでもなく、現存する構造物は、何度も破壊を受けた跡の上に性懲りも無く、何度も建て直されたために、イエスの時代から場所によっては、何十メートルも盛土されているとの考古学的説明に、つくづく人の性を見る思いがするのは、私だけでは無いのではないでしょうか？

主イエスが、そして預言者ヨハネが、父なる神と語り合われたであろう砂漠は、逆に、その厳しい自然環境が幸いして、恐らく当時とほぼ変わること無く、私たちの目の前に存在しているのではないかと思うと、ガイドのツァイリさんが教えてくれた、ヘブル語の「荒野」と「語られる」という表記が全く同じである事に、心からの驚きと感動を覚えずにはいられませんでした。２０１９年の聖地旅行時に、クムランとマサダを一緒くたに私の記憶の中にしまい込んだのも、恐らく、どちらも砂漠の中での強烈な印象が、神を信ずる者の祈りの場所としての荒野として、私の中に存在し続けたからかもしれません。

勿論、次回もイスラエルを訪ねる機会がある事を、神様に祈りたいと思います。私的には、神様がモーセと語られたシナイ山（エジプト国境を超える必要がありますが！）に登り、そこに古くから存在しているカタリナ修道院を訪ねることを夢想しています。きっとその為なら、荒野歩きにも耐えられるように体を整える努力も、苦にならずに行える様な気がします。（笑い）

イスラエル聖地旅行に参加できたことは、私のコンスタンツでの1年の滞在期間中で、最も多くの発見と感動と刺激に満ちた8日間で、人生の宝物になりました。

特に、マイヤー先生、享子さん、参加者のみなさまから、聖書、キリスト教、ユダヤ教とユダヤ人、イスラエルの歴史・地理・文化等について多くのことを学ばせていただきました。この機会を与えてくださった主に、そしてサバティカル（Sabbatical）にも感謝いたします。　平川眞規子